

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1990. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 79

日本野鳥の会 埼玉県支部

カモン 狭山湖へカモン

狭山湖では冬に一度だけ探鳥会が開かれており、カンムリカイツブリやカワアイサ等をめあてにおいでになる方が多いと思います。今回は、秋から春までの狭山湖におけるカモ達の様子をお知らせしますので、冬以外にも一度お出かけ下さい。

どんな場所にいるか

カモ達はだいたい決まった場所にあります。お正月頃の最盛期における各種のカモ達のお好みの場所を図1に示してみました。もちろん、必ずこの場所にいるとは限りませんが、餌の違いから好みの場所が決まっている様です。風が強かったり、凧がたくさん揚がっているような場合はかなり違う場所に移動しています。

ホオジロガモやミコアイサは昼間も盛んに潜って餌を取っていますので対岸の岸辺をていねいに探して下さい。ホオジロガモが、潜っている時間は30秒位です。潜った後に息を止めて待っていると、苦しくなった頃に出てきますよ！

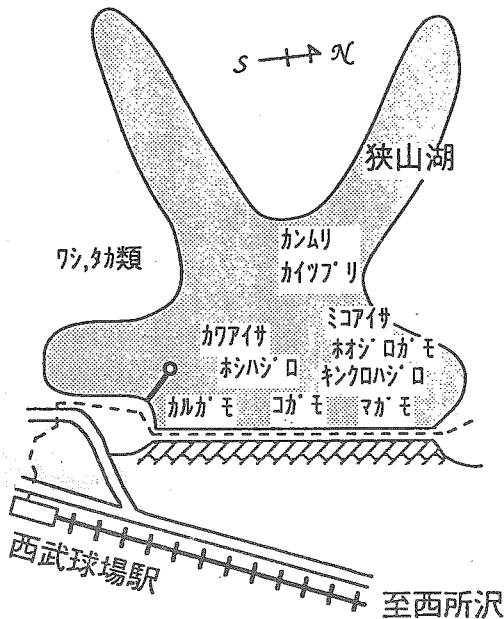


図1. 狭山湖におけるカモの分布例

いつ、何羽くらいいるか

各種のカモ達はどの様に狭山湖を訪れているのでしょうか。平成元年9月～2年5月の間に22回のカウントを行い、その結果をまとめてみました。図2にはマガモ、コガモ、カルガモとおまけでカンムリカイツブリの羽数を示します。各月の平均ではなく、観察日毎に印してあります。少しずつ数が増え、1月頃にピークになり、また少しずつ減っていますね。これは冬季滞在形とでもいえるでしょう。一番多いのがマガモであり、次がコガモです。カルガモもここではほとんどが冬鳥として振る舞っています。

図3はヒドリガモとオナガガモの羽数を示しています。ヒドリガモの数は1月と3月に

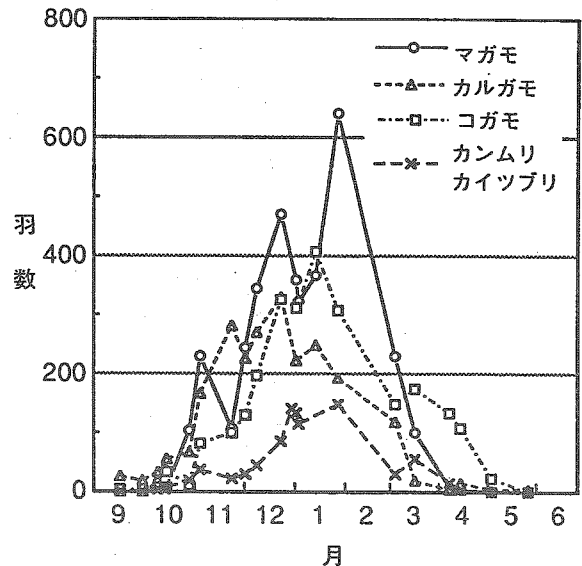


図2. カモの羽数の月変化: 冬季滞在形

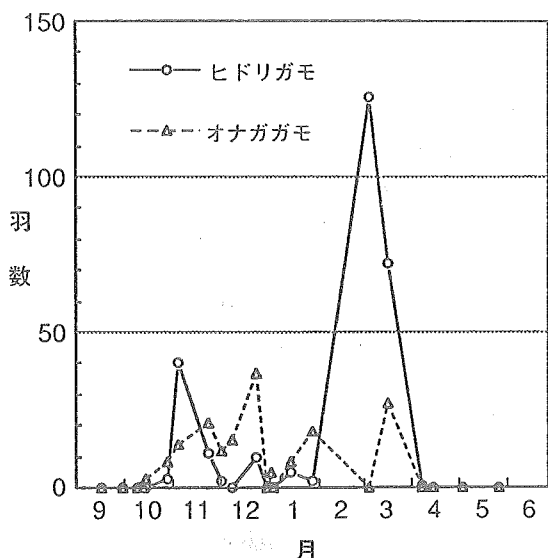


図3. 往復路立ち寄り形

2回ピークがあります。渡りの途中で南へ向かうときと北へ帰るときに立ち寄る形のようなですね。オナガガモは数が増えたり減ったりしており、きまぐれ立ち寄り型です。

図4はホシハジロとキンクロハジロです。ホシハジロの数は10月に大きなピークがあり、往路立ち寄り、キンクロハジロの数は4月に目立ったピークがあるので復路立ち寄り形でしょうか、両方ともきまぐれ型のようにも見えますね。

この他、単発的に立ち寄ったものは、観察できた回数と観察した延べ羽数を表に示しました。冬の間、ハシビロガモは狭山市の入間川においては常に10羽以上観察されているのに、狭山湖では極めて稀だということも不思議なものです。

こんなグラフを書くためには、カモがいないとわかっても狭山湖まで行かねばなりません。しかし、そのおかげでエゾビタキやサンショウクイを見ることができました。同じ場所に何度も通うというのはおもしろいものです。皆さんもどこか場所を決めて一年を通して通ってみてはいかがでしょうか。

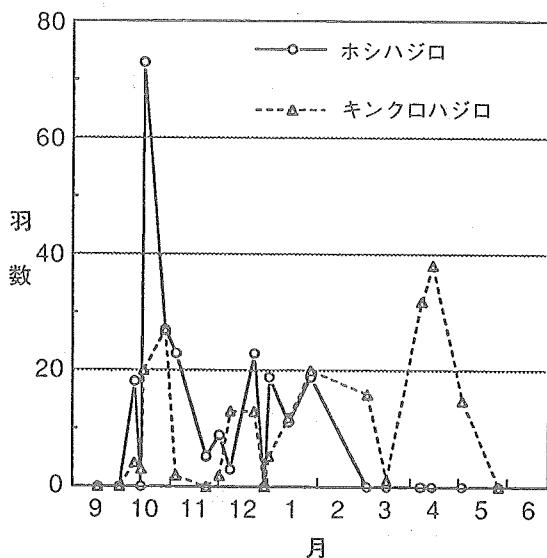


図4. 往路あるいは復路立ち寄り形

その他、交通

冬季は西風が吹くことが多く、狭山湖の堤防の上では湖面で冷やされた冷たい向かい風が吹くこととなります。普段より厚着で来られたほうがよいでしょう。

カムリカイツブリは3月初めにはほぼ半数が夏羽になっています。この頃にはもう冷たい風もあまり吹きませんがカモ達の数はかなり減っています。図、表を参考にすれば、おめあての鳥を見るにはいつごろが良いかわかると思います。

西武鉄道・狭山線・西武球場前駅で下車、山口観音を經由して徒歩15分程度で狭山湖に着きます。

(三田長久)

表 狭山湖における珍しいカモの観察頻度

種名	観察回数	延べ羽数
トモエガモ	1回	4羽
ヨシガモ	2回	3羽
ハシビロガモ	2回	3羽
ホオジロガモ	7回	29羽
ミコアイサ	7回	18羽
カワアイサ	8回	38羽

シロハラミズナギドリの記録

日時：1990年9月20日(木) 午前7時30分～
午前10時30分頃

場所：本庄市阪東大橋下流1km地点から阪東
大橋直下の利根川本流上空

観察者：町田好一郎(本庄市)、井上幹男(深
谷市)

天候：晴(台風19号の通過後)

観察者2名から、オオミズナギドリかオナ
ガミズナギドリではないかと写真が送られて
きて、野鳥記録委員会で検討した結果、シロ
ハラミズナギドリと同定した。

その根拠は次のとおり。

- ① 翼下面のパターンが明らかにシロハラミ
ズナギドリのものである。
- ② 後頸部の黒色模様。
- ③ 足が尾の先端よりかなり中に入っている。
- ④ 翼の長さで胴体の大きさのバランス。
- ⑤ 町田氏の報告によれば、「くちばしは黒
かった」とある。

シロハラミズナギドリは小笠原諸島・硫黄
列島などで繁殖し、その周辺の海上にすむ。
本州近海で観察されるのは、台風に運ばれて

くるときが多い。

埼玉県内でも過去目撃記録はいくつか知ら
れているが、写真等のある確実記録としては、
1982年8月、越生の記録がある。

なお、日本野鳥の会の『フィールドガイド
日本の野鳥』73ページのシロハラミズナギド
リの図版は、くちばしが短か過ぎること、翼
角から胴体に向かう黒線が長すぎることに、翼
後縁の黒い縁取りが薄いことなどが、PETER
HARRISONの『SEABIRDS an identifica-
tion guide』73ページの図版と異なる。当
委員会の判断は、後者を根拠とした。

(野鳥記録委員会)



撮影 井上幹男

会 員 制 度

正 会 員 『野鳥』誌と『しらこぼと』の両
方が毎月届きます。

年会費6,000円 入会金500円

普通会員 『しらこぼと』だけが届きます。

年会費2,500円 入会金500円

家族会員 正会員や普通会員の家族。『野鳥』
誌や『しらこぼと』は正会員たちに届くも
のをごらんください。

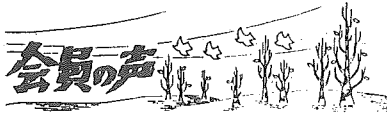
年会費500円 入会金なし

入会手続=郵便振替用紙の通信欄に、会員の
種別、住所、氏名、電話番号、生年月日、職
業を書いて、「東京4-98389 財団法人日本
野鳥の会」にお送りいただくのが便利です。

ジュニア会員は、支部独自の、中学生以下だ
けが入れる特典の制度です。『しらこぼと』
だけが届きます。本部会員としては登録さ
れません。年会費1,000円、入会金なし。

『野鳥』誌も読みたい人や本部会員とし
て登録したい人は、正会員または普通会員
として入会してください。また、高校生以
上になったときは、あらためて正会員また
は普通会員として(入会金も払って)入会
してください。

入会手続=郵便振替用紙の通信欄に、ジュ
ニア会員であること、住所、氏名、電話番
号、生年月日を書いて、東京9-121130 日本
野鳥の会埼玉県支部」にお送りください。



ノゴマ

井上 茂 (群馬県)



10月21日、PM 3 : 00すぎ。利根川、深谷市高島付近

ジョウビタキの地鳴き？「カタカタ」に気がついて、ふり返ったその前の真赤なノドにビックリぎょうてん。全てを集中してシャッターをきる。

逃げるな、逃げるなの祈り一本。

逆光なんか気にしない。手前のヨシなんか気にしない、気にしない。

ヨシノ。とりあえず押さえたフィルム一本。今夜の酒はうまいぞ〜。

北海道の鳥に埼玉で会えた、万歳ノ。

動作は冬のウグイスに似ていた。時々、「カタ、カタ」という音をたてていた。尾羽をよく上げていた。全くよく動き回る鳥であった。(編集部注：埼玉県内でのノゴマの記録は、1954年10月・秩父三峰山、同年同月・吹上町、1983年10月・庄和町などいくつかの記録しかありません)

探鳥雑記

臥游庵主 (吹上町)

「ヘイ・ジュード」、「イエスタディ」などのビートルズ・ナンバーは、娘が小さい頃、下手ながら好んでピアノを弾いていた思い出があり、私も好きな曲でいまでも風呂に入った時などハミングをすることがある。

「イエスタディ」ではないが、昨日のこと

のように思い出されるのがあの鮮烈なノゴマとの出会い。ウトナイ湖で、大畑レンジャーにノゴマ・シマアジ等が出る場所をお聞きして、歩き出したとたんかん高い声。スコープに入って来たのは梢の先で囀っている真赤なもののノゴマ、目の上下の白線も印象的だった。林ではシジュウカラ・ハシブトガラ・センダイムシクイ・エナガなどなど。センターの給餌台にはコムクドリ・シマアオジ・オオジュリンそれに可愛いシマリスも。湖岸の草原ではコヨシキリがうるさいくらいに唄い上空では10羽ほどのオオジシギがディスプレイフライト、すばらしい航空ショーを見せてくれました。初夏の北海道、来年も訪れてみたいものです。

伊良湖のタカの渡りを観て 植木 茂 (大宮市)

午前5時頃無事現地に着きましたが、既に多くのバードウォッチャーが、渡り鳥と同様に全国から集まってきているのにビックリ。朝やけの空の彼方に大小のタカの群れが現われ、それが次々と頭上を通りすぎて行く様には、軀が震える程の感動を覚えました。リーダーのお話では今日は風が強いので比較的低く飛翔しているとのこと。朝食後、岬の方へ移動し観察を続けていると、突然、ハヤブサがヒヨドリの群に襲いかかり、羽根が空中に飛散するのを目撃。かなりショッキングな出来事でした。更に、観察を続け、心ゆくまで群の飛翔を堪能することができました。

終りに今回のツアーの成功にご尽力下さいました幹事、リーダーの皆様に深く感謝致します。ありがとうございました。



秋の鳥情報

ハジロカイツブリ ◇9月22日、朝霞市の黒目川、花木橋上流で1羽。川で盛んに潜る(山上善郎)。◇9月23日、戸田市道満貯水池で1羽(高橋達也)。

カンムリカイツブリ ◇10月10日、狭山湖で2羽(三田長久)。◇10月20日、戸田市道満で3羽(登坂久雄)。

※**シロハラミズナギドリ** ◇9月20日午前7時本庄市の阪東大橋下流で1羽。台風通過直後に確認する。写真撮影にも成功する(町田好一郎、井上幹男)。

ゴイサギ ◇9月24日、幸手市木立付近の中川で幼鳥20羽ぐらい(秋間利夫)。

チュウサギ ◇10月7日、坂戸市入西の住宅公団造成地で11羽(増尾隆・節子)。

マガモ ◇10月7日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で♂1羽。完全な生殖羽でした(三田長久)。

シマアジ ◇9月20日、本庄市の阪東大橋下流でコガモ群れ中に1羽(井上幹男)。

オオタカ ◇9月10日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小淵健二)。◇9月26日、本庄市の阪東大橋下流で幼鳥1羽(井上幹男)。◇10月16日、熊谷市大麻生で1羽(小淵健二)。

ツミ ◇10月7日午前11時頃、桶川市若宮の自宅近くの電線に幼鳥1羽。胸の中に脚を入れて右側のみで立っていた(立岩恒久)。

ハイタカ ◇10月11日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小淵健二)。

サシバ ◇9月10日、寄居町の鐘撞堂山で6羽(小淵健二)。◇9月18日、深谷市の上武大橋下流で2羽。何度か旋回して寄居町方面へ(井上幹男)。◇9月27日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(井上幹男)。◇10月1日、午前8時35分~10時35分、鳩山町の物見山で43羽。台風一過の青空でサシバの渡りがよく見えました。北東または北西から現れて、南に去る。カラスにモビングされたりしましたが、低空飛行で翼の斑がよく見えました。鳩山野鳥の会の方々とご

一緒にした(増尾節子)。

ハヤブサ ◇9月5日、戸田市道満で若鳥1羽。干潟の鳥達を襲ったが、失敗した(高橋達也)。◇9月13日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。今シーズン初めて見る(井上幹男)。

チョウゲンボウ ◇10月9日、寄居町用土で1羽(小淵健二)。◇10月16日、熊谷市大麻生で1羽(小淵健二)。

メダイチドリ ◇9月13日、本庄市の阪東大橋下流でコチドリ、シロチドリの群れの中に1羽(井上幹男)。

トウネン ◇9月13日、深谷市の上武大橋下流で8羽(井上幹男)。

ハマシギ ◇10月13日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で2羽(三田長久)。◇10月20日、戸田市道満で4羽(登坂久雄)。

ツルシギ ◇9月18日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。◇10月20日、戸田市道満で1羽(登坂久雄)。

アオアシシギ ◇9月26日、本庄市の阪東大橋下流で8羽(井上幹男)。

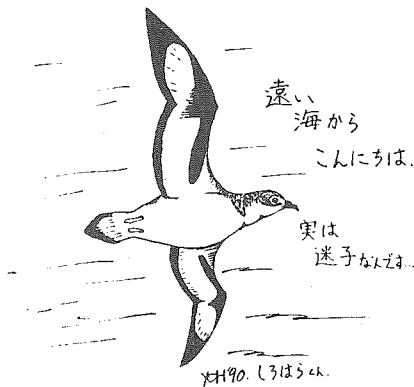
ユリカモメ ◇9月20日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(町田好一郎)。

ウミネコ ◇9月20日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(町田好一郎)。

オオセグロカモメ ◇9月20日、本庄市の阪東大橋下流で4羽(町田好一郎)。

ハジロクロハラアジサシ? ◇10月6日、戸田市道満で1羽(登坂久雄)。

アジサシ ◇9月20日午前6時55分、深谷市の上武大橋下流で29羽(井上幹男)。◇9月20日午前7時、本庄市の阪東大橋下流で67羽乱舞(町田好一郎)。



シラコバト ◇9月18日、戸田市道満で1羽
(草間和子)。◇10月5日、吹上町の自宅
付近で1羽(逸見 嶮)。

ツツドリ ◇10月7日と14日、狭山市の入間
川、本富士見橋上流の右岸で幼鳥1羽。毛
虫をおいしそうに食べていた(三田長久)。
◇10月7日、桶川市若宮の自宅近くの農家
の庭で大きなあお虫を食べていた。腹部の
太い横しま。尾羽の中心に5つの白点、両
側に9つの白い斑点がよく見えた。ああや
って栄養を摂りながら南の国へ渡っていく
のかね(立岩恒久)。

ヤマセミ ◇9月23日、寄居町の玉淀河原で
♀1羽(田口浩司、森本國夫、山部直喜)。

カワセミ ◇9月19日、北本市石戸宿の一夜
堤沼で2羽。北里の池で1羽(小川ひろつ
ぐ)。◇9月23日、幸手市木立付近の中川
で1羽(秋間利夫)。

ツバメ ◇10月9日、寄居町用土で25羽(小
淵健二)。

コシアカツバメ ◇9月18日、深谷市の上武
大橋下流でショウドウツバメ群れ中に1羽
(井上幹男)。◇10月10日、坂戸市入西の
住宅公団造成地で十数羽(増尾 隆)。

タヒバリ ◇10月14日、狭山市の入間川、本
富士見橋上流で2羽(三田長久)。

ヒヨドリ(渡り) ◇10月11日、寄居町の鐘
撞堂山で27羽(小淵健二)。◇10月12日、
桶川市若宮の自宅上空を北から南西へおし
ゃべりしながら渡って行った(立岩恒久)。
◇10月16日9時30分~12時、熊谷市大麻生
で50羽前後の群れで10グループにて移動。
合計500羽ほど(小淵健二)。

ジョウビタキ ◇10月18日午後4時30分、本
庄市の阪東大橋下流で1羽。「お久しぶり」
とこちらを向いて盛んにおじぎをしていた

(町田好一郎)。◇10月20日、戸田市道満
で♀1羽(登坂久雄)。

ノビタキ ◇9月23日、幸手市木立付近の中
川で2羽(秋間利夫)。◇9月27日、本庄
市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

◇10月20日、戸田市道満で1羽(海老原美
夫)。

コヨシキリ ◇9月24日、幸手市木立付近の
中川で1羽。「枯葦にさえぎり残し コヨ
シキリ」です(秋間利夫)。

キビタキ ◇9月24日、戸田市道満の釣り堀
横の林で♀1羽(高橋達也)。◇9月29日、
戸田市の戸田公園で♀1羽(高橋達也)。

エゾビタキ ◇9月28日、戸田市道満の釣り
堀横の林で1羽(高橋達也)。

コサメビタキ ◇9月27日、本庄市の阪東大
橋下流で1羽(井上幹男)。◇9月28日、
戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(高橋達
也)。

エナガ ◇9月10日、寄居町の鐘撞堂山で6
羽。シジュウカラとの混群でした(小淵健
二)。

スズメ(部分白化) ◇9月30日午後2時頃、
本庄市の阪東大橋下流の草原で1羽。約30
羽の仲間と一緒に雨の中、草の実をついば
んでいた。顔と背は普通のスズメと変わら
ず、両翼と尾羽が真っ白な個体だった(町
田好一郎)。

カケス ◇9月24日、戸田市道満の釣り堀横
の林で1羽(高橋達也)。◇10月1日、浦
和市中尾の自宅近くの屋敷林で大声を聞く
(草間和子)。

※シロハラミズナギドリは、10月13日の当支
部野鳥記録委員会で確認されました。

表紙の写真

1990 ネイチャーフォトコンテスト入選作

ニホンリス

北海道に分布するエゾリス、エゾシマリス
に対して、ホンドリリスとも言う。箆抜けのシ
マリスなどを野外で見かけることもあるが、
元来、本州に分布するリスは本種だけである。
雪の季節には野鳥の餌台に出てきて、ヒマ

ワリの種子などを失敬することもある。
一見愛くるしいしぐさの彼らだが、あらた
めてみると、実に厳しい表情をしているもの
だ。1988年2月13日 軽井沢塩壺温泉
(榎本秀和・鴻巣市)

行事あんない



越生町・テストウォーク探鳥会

期日：12月9日（日）

集合：午前9時15分 東武越生線越生駅前

交通：東武東上線川越8：33発→坂戸で越生線乗換え、8：49発→越生9：13着
（集合後、9：30発バスで現地へ）

解散：午後2時ごろ

担当：海老原美夫

見どころ：越生の里探検隊。実は、鳥がいるかどうかもわからない、どんな道歩くかも良くわからない、探鳥会コース探しのテストウォークを、探鳥会そのものにしちゃえという、新しい試み。どんな出会いがあるか、新しいことが好きな人、お集まりください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月9日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：00 発または秩父鉄道寄居8：52 発に乘車

担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎、関口善孝、諏訪夕香子、田口浩司、宮坂亨

見どころ：荒川の流れに浮かぶコハクチョウ。白鳥が来るのは、北海道や東北だけではありません。なんと、埼玉の熊谷にも来てしまうんです。ご近所の方、身近な鳥・コハクチョウを、一度見に来てみませんか。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日です。参加費は一般100円、会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、午後1時ごろになります。

◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇

- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒らしたりしないように。細く長いおつきあいを。
- ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

滑川町・森林公園探鳥会

期日：12月16日（日）

集合：午前10時 森林公園南口

交通：東武東上線森林公園駅から東武バス森林公園南口行き9：42 発に乘車、南口9：52 着

費用：入園料360円（子供80円）は各自で負担願います。

担当：諏訪隆久、榎本秀和、岡安征也、橋本博夫、逸見嶮、田口浩司

見どころ：冬景色に彩りを添える鳥たち。藪陰にルリビタキのブルー、冬枯れの木々の枝先にミヤマホオジロの黄、そして沼には、色とりどりのカモの群れ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月16日（日）

集合：午前8時15分 JR京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：冬を越すシギ、チドリ。寒風吹きすさぶ芝川では、タカブシギやイカルチドリが一所懸命、餌探し。その健気な姿で、今年の探鳥会を締めくくりましょう。野鳥たち、今年もありがとう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月22日（土） 午後1時～3時ごろ
会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間をいって進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンション1階＝徒歩5分）
案内：何かと忙しい師走ですが、ちょっと手が空いたら、『袋づめ』の方もよろしく……。簡単な作業と楽しい語らいで、気分転換できます。

野鳥写真クラブ定例会

とき：12月22日（土） 午後3時～5時ごろ
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：写真クラブも一年の総決算。傑作・珍作・快作・怪作、この際、何でも大公開。みんなで眺めて、みんなで笑えば、来年もきっと Happy Year！

年末講演会

期日：12月23日（日）
会場：浦和市立コミュニティーセンター（浦和駅西口から県庁通り西進、中山道左折して約600m、右側）3階視聴覚室
プログラム：1. スライド映写「埼玉県支部の1年」 午後2時～2時30分 一見まじめな会議風景、きれいでキャシイ女性リーダーの花嫁姿 etc. この1年の支部の話題、表もウラもすべてご紹介。なお、支部活動に関するスライドを披露して下さる方は、前もって事務局までご連絡下さい。
2. 映画「野鳥の巣箱」とお話 久保田義久氏（プロダクション未来） 午後2時30分～4時30分 講師の久保田氏は、野鳥映画の製作者。国内だけでなく、海外の鳥たちとも顔なじみとのことで、いろいろ楽しいお話が聴けそうです。今年の暮れは、スクリーン中の鳥をお楽しみ下さい。

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：平成3年1月3日（木）
集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗り場（高島屋向い側）から中野田引返場行き乗車、上野田下車／浦和駅西口1番バス乗り場からさぎ山記念公園行き乗車、終点下車 ◎当日、バスは正月臨時ダイヤで運行されます。確認の上お出かけ下さい。

担当：海老原美夫、松井昭吾、楠見邦博、藤原真理

見どころ：新年は、“さぎ山”から始まる。こたつでゴロ寝、おトソづけよりも、人波にグッタリの初詣よりも、ずっとヘルシーなお正月。冬の里の鳥やタゲリをたずねて軽い散策、解散後は恒例・アウトドア新年会で乾杯ノ

久喜市・昭和池探鳥会

期日：平成3年1月6日（日）
集合：午前9時10分 JR東北本線白岡駅北口（集合後、バスで現地へ）、または午前9時45分 昭和池駐車場
担当：石川敏男、中島康夫、浅田徳次、小林恒雄、五十嵐浩
見どころ：見わたすかぎり、カモの群れ。よく探せば、トモエガモ。よくよく探せば、アメリカヒドリ。もっとも、よく探したら、はたして何が見つかるかな？

1月12日（土） 茨城県・菅沼探鳥会
1月13日（日） 熊谷市・大麻生探鳥会
同日 川越市・西川越探鳥会
1月15日（火・祝） ガンカモ類調査
1月20日（日） 浦和市・三室地区探鳥会
1月27日（日） 吉見町・吉見百穴探鳥会
同日 川口市・差間探鳥会

行事報告

7月22日(日) 狭山市 入間川

人 40人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ ササゴイ コサギ カルガモ キジバン コチドリ キアシシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種) 暑い中、日影のない入間川の河原を歩き回る40人もの物好きに鳥もびっくり。31種類も見られた。夏でもこれくらい出るんだから、秋には何種類くらい出るのか、次回が楽しみ。

9月2日(日) 第7回初級リーダー研修会

講師 中村滝男(本部) 参加者 研修生=浅沼源太郎、入野俊夫、遠藤薫、小谷野勝栄、佐藤洋太郎、下川礼子、田原万姫子、中村治、菱沼一充、菱沼洋子、村上由香、山口静江 役員・リーダー=五十嵐浩、石井幸男、伊藤芳晴、海老原教子、海老原美夫、草間和子、楠見邦博、楠見文子、黒田佳子、小林みどり、諏訪隆久、関口善孝、田口浩司、中島康夫、林滋、藤野富代、藤原寛治、逸見峻、町田好一郎、松井昭吾、三田長久、森本國夫、山部直喜、吉原俊雄、内藤義雄

研修生には新しい勉強、役員・リーダーにとっては初心を思い起こす恒例の研修会であった。当支部の研修会は毎年欠かさずに行われ、今や本部にも期待されるものとなったが、今後も着実に実施して、支部発展の基礎としたいものだ。新しいリーダーの活躍を期待しよう。

9月30日(日) 川口市 差間

台風による風雨で中止。

9月30日(日) タカの渡り調査

台風による風雨で中止。

10月10日(水・休) 愛知県 伊良湖岬

人 49人 天気 晴 鳥 オオミズナギドリ カワウ ウミウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ スズガモ ミサゴ ハチクマトビ オオタカ ツミ ノスリ サシバ チュウヒ ハヤブサ チゴハヤブサ コジュケイ アオアシシギ タカブシギ イソシギ タシギ ツバメチドリ ユリカモメ ウミネコ キジバト アマツバメ カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ イソヒヨドリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(55種) 心配した台風も過ぎ、まさにタカ日和となり、次々と上空を渡っていく。「あれはサシバ」「こっちはハチクマ」「あれはオオタカだ」全国から集まったバードウォッチャーの集団の中に埼玉県支部も仲間入り。そして圧巻は、すぐ頭の上で、群れて渡っていくヒヨドリの中にハヤブサが飛び込み、1羽を捉えたこと。松の枝に止まり、ムシャムシャ。まさに大自然のドラマに遭遇。思わずため息が……。帰りに寄った汐川ではツバメチドリを見ることができた。

10月14日(日) 熊谷市 大麻生

人 46人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ タカSP ハヤブサ コジュケイ キジ イソシギ キジバト ツツドリ アリスイコゲラ ヒバリ イワツバメ ハクセキレイ

セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒ
ワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (31種) いよいよバー
ドウォッチングの季節の大麻生。期待のノビ
タキは、期待の場所でゆっくり私たちを楽し
ませてくれた。エゾビタキが確認できなかつ
たのは残念だったが、アリスイが現われた。
アリスイも多分渡りの途中で翼を休めていた
のだろう。豊かな大麻生の自然が、今年も多
くの旅鳥の中継地となった。来年もよろしく。

10月21日(日) 浦和市 三室地区

人 72人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサ
ギ カルガモ コガモ オナガガモ バン
タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ
キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハ
クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モ
ズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ
ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28
種) この秋一番の快晴で気持ちのいい探鳥会。
ユリカモメやジョウビタキ、シメと冬の常連
たちがやってきた。日本野鳥の会の会員が3
万人を超えたことで、読売新聞本社から記者
が取材に来て、埼玉県支部の活躍ぶりが報道
された。(10月26日の家庭欄に大きく掲載さ
れた。)

11月3日(土) 富士見市 柳瀬川

人 56人 天気 晴 鳥 カワウ ダイサギ
コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オ
ナガガモ ハイタカ タゲリ イソシギ ユ
リカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ
ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ホオジロ アオジ カワラ
ヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (26種) 風もなく暖かな一日。
主役のタゲリも予定どおり現われてくれた。
最初は飛んでいるのしか見られなかったが、
後で下に降りている姿をバッチリ見られた。
朝5時に起きて神奈川から来た人や東京、千
葉からの人もいたが、リーダーも面目をほど
こした。鳥合わせの際には、ハイタカがカラ

スと空中戦をするというおまけまで付いた。
カモが例年より少なかったのが残念だった。

11月4日(日) 浦和市 秋ヶ瀬
雨天のため中止。

11月4日(日) 吉見町 吉見百穴周辺
雨天のため中止。

11月10日(土) 栃木県 奥日光

人 32人 天気 晴 鳥 カイツブリ マガ
モ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ キンク
ロハジロ トビ ノスリ キジバト アカゲ
ラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ
モズ カワガラス ミソサザイ ルリビタキ
ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒ
ガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシ
リ カシラダカ アトリ マヒワ ウソ シ
メ カケス ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (33種) 明け方まで降っていた雨もあが
って暖かい良い天気にも恵まれ、初参加の方を含
む参加者全員が、初冬の景観と鳥たちを十分
に楽しめた。初めのうちは鳥が出ず、リーダ
ーの気をもませたが、キバシリ、ゴジュウカ
ラを含むカラ類の混群に会ってからは、次々
に現われた。なかでもハイライトは、コメツ
ガの実を食べていたシメの群れ。その中には
アトリやマヒワも見られた。

11月11日(日) 熊谷市 大麻生

人 29人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワ
ウ コサギ アオサギ マガモ コガモ カ
ルガモ チョウゲンボウ イソシギ キジバ
ト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオ
ジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (26種) 快晴の青
空のもと、河原一周のコースをとった。ジョ
ウビタキやカシラダカなどの冬鳥が今年もや
ってきた。リーダーは、下見で確認ずみのツ
グミを期待していたが、本番では姿を見せて
くれなかった。でもカワセミは全員で見られ
た。



カスミ網陳情書採択されず

9月定例県議会において、当支部の提出したカスミ網一般販売禁止の意見書決議を求める陳情書は、残念ながら採択されませんでした。しかし、全国レベルにおいては、今、大きな声にまともろうとしています。もう一息のご協力をお願いします。

ハクチョウの里親になりませんか

福島県支部から、福島市で募集しているハクチョウの里親について、協力依頼の連絡がありました。

阿武隈川に飛来する800羽をこえるハクチョウ（コハクチョウ90%以上）の餌不足に困り、全国に呼びかけているものです。

募集期間：平成3年3月31日まで

愛護金：1人1,500円

特典：オリジナルテレフォンカード、シーズン中の福島市内の旅館・ホテル宿泊料1割引など

申込方法：郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を記入、愛護金を現金書留で送金
申込み・問合せ先：〒960 福島市五老内町3-1 福島市観光課内「白鳥の里親」係
(☎0245-35-1111)

来年の全国大会は

タンチョウと湿原保護の進展に役立てるため、平成3年7月6日(土)～7日(日)の2日間、北海道鶴居村で開催されます。

会員であれば誰でも参加できます。今からスケジュール調整と荷物の準備をどうぞ!!

県では野生の生きもの写真コンクール

募集期間：平成2年12月3日(月)～平成3年1月31日(木)

くわしくは、〒336 浦和市高砂3-15-1

埼玉県環境部自然保護課(☎048-824-1111 内線2424)にお問い合わせください。

12月の土曜日当番(2時～4時)

12月8日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

12月15日 榎本秀和 五十嵐浩

12月22日 袋づめの会(1時から)

12月28日(金)～1月7日(日) 事務局休み

ご寄付ありがとうございます

鈴木忠雄 20,000円、野崎幸雄 5,000円、吉田佳代 2,000円。(50音順、敬称略)

会員数は

11月1日現在 1,470人です。

活動報告

10月13日 野鳥記録委員会会議。

10月18日 コンテスト入選作、埼玉新聞に掲載開始。

10月20日 研究部会議。

10月21日 読売新聞本社記者が三室の探鳥会を取材。26日全国版くらし欄に掲載。

10月21日 役員会議(司会：林滋、パネル展・関プロ会議・探鳥会予定・その他)

11月1日 埼玉新聞が「自然探訪」展を取材。2日埼玉北版に掲載。

11月5日 新しいコピー機納品。



最近の事務局ではナントカアジサシとか○ガモの話でにぎやかですが、僕の頭の中はドコソコ大学ナニナニ学部の事いっぱいです。センター試験まであと1カ月、受験生はそろそろ追いこみなんだそうですが、僕は今日もここでイラスト描いています。「明るい浪人生だね」とか「楽しそうじゃない」とかよく言われますが、いくら楽しくても、もう、今年だけで結構です。(何森 要)

『しらこぼと』1990年12月号(第79号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)